

特別支援学校 学習指導案様式について

1 小・中学校、高等学校に準ずる教育課程の場合

各障害種の特性を踏まえた上で、小・中学校、高等学校の各教科の学習指導案様式を参考にしてください。

2 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う教育課程の場合

- 国語・算数など「教科別の指導」と生活単元学習・作業学習など「各教科等を合わせた指導」の学習指導案様式例と解説ナビを示します。参考にしてください。

3 自立活動の場合

- 「題材名」の欄には、題材名とともに関連している自立活動の内容（6区分27項目）も記入します。
- 「題材の目標」や「題材の指導と評価の計画」などは、「個別の指導計画」に基づき、題材における到達目標や状況を記入します。

自立活動は、三つの柱〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕〔学びに向かう力、人間性等〕では整理されていません。自立活動は、心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものであり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っているものです。

各教科等
①知識及び技能
②思考力、判断力、表現力等
③学びに向かう力、人間性等

自立活動

- 学習指導案様式については、「特別支援学校 教師のためのサポートブックⅡ 学習指導案を書こう 30のポイント」（H22宮城県特別支援教育センター）を参考にしてください。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/26814/114739.pdf>



〇〇支援学校 〇学部 〇年〇組 〇〇科 学習指導案(細案の様式例)

単元か題材か、どちらかを選択します。

- ・単元とは、学習内容の有機的なまとまりを示すもので、学習内容に順序性があり、計画・実際の展開・まとめを一連の活動として設定しているもの。
 - ・題材とは、教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもので、教材の一部であり、学習活動の最低限のまとまりとして設定しているもの。
- 小学部では児童、中学部・高等部では生徒を選択します。

日 時 令和〇年〇月〇日〇:〇〇~〇:〇〇

場 所 〇学部〇年〇組 教室

指導者 〇〇 〇〇(T1)

〇〇 〇〇(T2)

1 単元(題材)名「〇〇〇〇〇〇〇〇」(教科書名〇〇〇)

- ・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

2 単元(題材)設定の理由

(1) 児童(生徒)の実態[〇年〇組・〇名]

- ・教科や単元(題材)に関わる児童生徒の実態や興味・関心、学習状況等について記入します。
- ・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように、学習集団の実態と課題を整理して記入します。
- ・学習状況については「〇〇科については、これまで△△について学習した」というように、具体的に記入します。

(2) 単元(題材)観

本単元(題材)は、特別支援学校〇学部学習指導要領〇〇科の、以下の目標・内容を受けて設定している。

〇学部 〇段階 目標

※ここに目標を記入する。

〇学部 〇段階 内容

※ここに内容を記入する。

- ・単元(題材)に関する、学習指導要領の目標及び内容を、三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って転記します。その際、内容の扱いについても確認します。

本単元(題材)では、……

- ・単元(題材)に対する考え方や、なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
- ・国語科については、小学校・中学校に準ずる教育課程で行う場合のみ、「取り上げる言語活動」を記入します。

(3) 指導観

- ・児童生徒の実態、単元(題材)観を基に、目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫(教材・教具、授業の組み立て、場の設定、学習形態等)をするのか、具体的に記入します。

3 単元(題材)の目標

- (1) 学習指導要領に示された目標及び内容を基に設定します。目標設定に慣れるまでは、学習指導要領に示された内容から、そのまま下ろして目標を設定すると良いでしょう。
- (2) 単元(題材)を通して、「育成を目指す資質・能力」を明確にして記入します。
- (3) 学習集団の実態が幅広く、児童生徒の段階が異なる場合は、段階ごとに目標を設定します。もしくは、実態や段階が似たグループについての学習指導案を作成する方法もあります。

4 単元(題材)の指導と評価の計画

(1) 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
………している。	………している。	………しようとしている。

- ・「3 単元(題材)の目標」に対応する単元(題材)の評価規準を評価の観点ごとに設定します。つまり、「3 単元(題材)の目標」と、この「4 (1) 単元(題材)の評価規準」はほぼ同じになります。

(2) 単元(題材)の指導と評価の計画(○時間扱い 本時○/○)

次	小単元(小題材)名	時数	学習活動	評価規準			評価方法
				知・技	思考・表	主	
1	児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。		目標達成のために、単元(題材)全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。	- 評価規準には、単元の学習の評価として活用する「記録に残す評価」と、次時に向けて「指導に生かす評価」があり、分けて記入します。 - 評価の観点を位置付けることで、指導の重点を意識することができます。			
2							
3							
4							

※ ○:記録に残す評価 ・:指導に生かす評価

5 単元(題材)の個別の目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A児	- 単元(題材)を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化して設定します。 「3 単元(題材)の目標」を基に、「個別の指導計画」との関連を意識して目標を設定します。		
B児			
C児			

6 本時の計画

(1) 小単元(小題材)名「○○○○○○○○○○」

(2) 本時の目標

・……………
・……………

・「3 単元(題材)の目標」を基に、本時で育成を目指す資質・能力を考え、集団の目標を設定します。
・「4 単元(題材)の指導と評価の計画 (2)の評価規準」に示した「○や・」に基づき、目標を設定します。そのため、3観点全ての目標を設定する必要はありません。

……………できる。[]
……………しようとしている。「 」

(3) 本時の指導に当たって

・本時の目標達成のために、本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫(教材・教具、学習環境等)や支援をするのかを具体的に記入します。

(4) 児童(生徒)の実態と個別の目標及び評価

	児童(生徒)の実態	本時の個別の目標	手立て	評価
A児	できるだけ否定的な表現は避け、これまでの学習状況について記入します。	「(2) 本時の目標」を基に育成を目指す資質・能力を記入します。その際、「個別の指導計画」を基に、自立活動の指導との関連も意識しながら設定します。	個々の実態を踏まえ、具体的な手立てを記入します。	「本時の個別の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。
B児				
C児				

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動 ○→教師の働き掛け ☆→評価)			準備物									
		A児	B児	C児										
導入 ○分	「学習活動」は、学級で行う大まかな活動を記入します。 「指導上の留意点」は、児童生徒の具体的な活動（・）や教師が行う指導や支援（○）、評価（☆）について記入します。授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記入しましょう。													
	指導過程の書き方は様々あるので、目的に応じて使い分けます。 (本例は、個別の支援が分かりやすい指導過程)													
展開 ○分	一般的な指導過程の例 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動（学習内容）</th> <th>指導上の留意点</th> <th>準備物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>					学習活動（学習内容）	指導上の留意点	準備物						
	学習活動（学習内容）	指導上の留意点	準備物											
グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>Aグループ（A児、B児）</th> <th>Bグループ（C児、D児）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>					学習活動	Aグループ（A児、B児）	Bグループ（C児、D児）							
学習活動	Aグループ（A児、B児）	Bグループ（C児、D児）												
終結 ○分	教材・教具等の指導の工夫が分かりやすい指導過程の例 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学習活動</th> <th colspan="2">作業内容と指導上の留意点</th> <th rowspan="2">教材・教具等</th> </tr> <tr> <th>〇〇作業チーム A児、B児</th> <th>△△作業チーム C児、D児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>					学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等	〇〇作業チーム A児、B児	△△作業チーム C児、D児			
	学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等										
〇〇作業チーム A児、B児		△△作業チーム C児、D児												

(6) 本時の評価規準

・
 ・

・ 「(2) 本時の目標」に対応した評価を記入します。
 ・ 3観点全ての評価を記入する必要はありません。

.....している。[]
しようとしている。「 」

(7) 準備物

- ・教師：
 - ・児童（生徒）：
- ・ 教師、児童生徒が準備するものを具体的に記入します。

(8) その他

- ・ 本時の学習活動に必要な、「場の設定」や「板書計画」等を、必要に応じて記入します。
- ・ 児童生徒や教師の位置、教材・教具の位置、環境整備の工夫等が分かるように記入します。

〇〇支援学校 〇学部 〇年〇組 〇〇〇 学習指導案(細案の様式例)

日 時 令和〇年〇月〇日〇:〇〇~〇:〇〇

場 所 〇学部〇年〇組 教室

指導者 〇〇 〇〇(T1)

〇〇 〇〇(T2)

単元か題材か、どちらかを選択します。

- ・単元とは、学習内容の有機的なまとまりを示すもので、学習内容に順序性があり、計画・実際の展開・まとめを一連の活動として設定しているもの。
 - ・題材とは、教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもので、教材の一部であり、学習活動の最低限のまとまりとして設定しているもの。
- 小学部では児童、中学部・高等部では生徒を選択します。

1 単元(題材)名「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」

・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。

教科書名(〇〇〇) 使用している場合は記入します。

2 単元(題材)設定の理由

(1) 児童(生徒)の実態[〇年〇組・〇名]

- ・単元(題材)や扱う各教科等に関わる児童生徒の実態や興味・関心、学習状況等について記入します。
- ・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように、学習集団の実態と課題を整理して記入します。
- ・学習状況については「〇〇科については、これまで△△について学習した」というように、具体的に記入します。

(2) 単元(題材)観

本単元(題材)は、特別支援学校〇学部学習指導要領〇〇科、〇〇科…の、以下の目標・内容を受けて設定している。

〇学部 〇〇科 〇段階 目標

※ここに目標を記入する。

〇学部 〇〇科 〇段階 内容

※ここに内容を記入する。

- ・単元(題材)に関する、学習指導要領の目標及び内容を、三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って転記します。その際、内容の扱いについても確認します。
- ・扱う各教科等は、単元(題材)の中心となる2~3教科が望ましいです。それより多くなると、児童生徒が「何を学ぶのか」を理解することが難しくなります。
- ・この様式例では、2教科を合わせた場合の学習指導案を示しています。

本単元(題材)では、……

- ・児童生徒が本単元(題材)で「何を学ぶのか」が分かるように、単元(題材)に対する考え方や、なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。

(3) 指導観

- ・児童生徒の実態、単元(題材)観を基に、目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫(教材・教具、授業の組み立て、場の設定、学習形態等)をするのか、具体的に記入します。

3 単元(題材)の目標

教科	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
教科A	………できる。	………できる。	………しようとしている。
教科B	・本単元(題材)で扱う各教科等について、学習指導要領に示された目標及び内容を基に設定します。目標設定に慣れるまでは、学習指導要領に示された内容から、そのまま下ろして目標を設定すると良いでしょう。 ・単元(題材)を通して、「育成を目指す資質・能力」を明確にして記入します。 ・学習集団の実態が幅広く、児童生徒の段階が異なる場合は、段階ごとに目標を設定します。もしくは、実態や段階が似たグループについての学習指導案を作成する方法もあります。		

4 単元(題材)の指導と評価の計画

(1) 単元(題材)の評価規準

教科	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科A	……………している。	……………している。	……………しようとしている。
教科B	・「3 単元(題材)の目標」に対応する単元(題材)の評価規準を評価の観点ごとに設定します。 つまり、「3 単元(題材)の目標」と、この「4 (1) 単元(題材)の評価規準」はほぼ同じになります。		

(2) 単元(題材)の指導と評価の計画(○時間扱い 本時○/○)m

次	小単元(小題材)名	時数	学習活動	評価規準			扱う教科の内容
				知・技	思・判・表	主	
1	・児童生徒が活動をイメージしやすく、意欲が高まる表現で記入します。		・目標達成のために、単元(題材)全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。	・評価規準には、単元の学習の評価として活用する「記録に残す評価」と、次時に向けて「指導に生かす評価」があり、分けて記入します。 ・扱う教科の内容を意識することで、その時間で児童生徒にどんな力を身に付けさせたいかを考えることができます。			
2							
3					○		(教科A)
				○	・		(教科B)
4				・	・		(教科A)
				○		○	(教科B)

※ ○:記録に残す評価 ・:指導に生かす評価

5 単元(題材)の個別の目標

	教科	単元(題材)の個別の目標
A児	教科A	・単元(題材)を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化して設定します。 ・「3 単元(題材)の目標」を基に、「個別の指導計画」との関連を意識して目標を設定します。
	教科B	
B児	教科A	
	教科B	
C児	教科A	
	教科B	

6 本時の計画

(1) 小単元(小題材)名「○○○○○○○○○○」

(2) 本時の目標

……………	・「3 単元(題材)の目標」を基に、本時で育成を目指す資質・能力を考え、集団の目標を設定します。 ・「4 単元(題材)の指導と評価の計画 (2)の評価規準」に示した「○や・」に基づき、目標を設定します。そのため、3観点全ての目標を設定する必要はありません。	……………できる。[]
……………		……………ようとしている。[]

- (3) 本時の指導に当たって
- ・本時の目標達成のために、本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫（教材・教具、学習環境等）や支援をするのかを具体的に記入します。

(4) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価
A児	・できるだけ否定的な表現は避け、これまでの学習状況について記入します。	・「(2) 本時の目標」を基に育成を目指す資質・能力を記入します。その際、「個別の指導計画」を基に、自立活動の指導との関連も意識しながら設定します。	・個々の実態を踏まえ、具体的な手立てを記入します。	・「本時の個別の目標」に対して、児童生徒のどのような姿が見られれば、「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。
B児				
C児				

(5) 指導過程

段階	指導上の留意点 (・→児童生徒の活動　○→教師の働き掛け　☆→評価)			準備物											
	A児	B児	C児												
導入 ○分	・「学習活動」は、学級で行う大まかな活動を記入します。 ・「指導上の留意点」は、児童生徒の具体的な活動（・）や教師が行う指導や支援（○）、評価（☆）について記入します。授業の流れ、児童生徒や教師の動きが分かるように記入しましょう。														
展開 ○分	・指導過程の書き方は様々あり、目的に応じて使い分けます。（本例は、個別の支援が分かりやすい指導過程）														
	一般的な指導過程の例 <table><tr><td>学習活動（学習内容）</td><td colspan="2">指導上の留意点</td><td>準備物</td></tr><tr><td colspan="4">グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例</td></tr><tr><td>学習活動</td><td>Aグループ（A児、B児）</td><td colspan="2">Bグループ（C児、D児）</td></tr></table>				学習活動（学習内容）	指導上の留意点		準備物	グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例				学習活動	Aグループ（A児、B児）	Bグループ（C児、D児）
学習活動（学習内容）	指導上の留意点		準備物												
グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例															
学習活動	Aグループ（A児、B児）	Bグループ（C児、D児）													
終結 ○分	教材・教具等の指導の工夫が分かりやすい指導過程の例 <table><tr><td rowspan="2">学習活動</td><td colspan="2">作業内容と指導上の留意点</td><td rowspan="2">教材・教具等</td></tr><tr><td>〇〇作業チーム（A児、B児）</td><td>△△作業チーム（C児、D児）</td></tr></table>				学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等	〇〇作業チーム（A児、B児）	△△作業チーム（C児、D児）					
学習活動	作業内容と指導上の留意点		教材・教具等												
	〇〇作業チーム（A児、B児）	△△作業チーム（C児、D児）													

(6) 本時の評価規準

- ・……………
- ・「(2) 本時の目標」に対応した評価を記入します。……………している。〔 〕
- ・……………
- ・3観点全ての評価を記入する必要はありません。……………ようとしている。〔 〕

(7) 準備物

- ・教師：……………教師、児童生徒が準備するものを具体的に記入します。
- ・児童（生徒）：……………

(8) その他

- ・本時の学習活動に必要な、「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
- ・児童生徒や教師の位置、教材・教具の位置、環境整備の工夫等が分かるように記入します。